

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

Select All
 Clear Selections

Format
 Display Selected **Free**

1. 2/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

015035805

WPI Acc No: 2003-096321/200309

XRAM Acc No: C03-024397

Agent useful as health food for improving blood circulation,
 comprises Bidens plant or Bidens plant components

Patent Assignee: MUSASHINO MENEKI KENKYUSHO KK (MUSA-N)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2002205954	A	20020723	JP 20011720	A	20010109	200309 B

Priority Applications (No Type Date): JP 20011720 A 20010109

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 2002205954 A 5 A61K-035/78

Abstract (Basic): JP 2002205954 A

NOVELTY - An agent for improving blood circulation, comprises a Bidens plant or its component.

DETAILED DESCRIPTION - An INDEPENDENT CLAIM is included for a method for improving blood circulation, which involves administering the Bidens plant or its component.

ACTIVITY - Vasotropic; Vulnerary.

MECHANISM OF ACTION - None given.

USE - As health food for improving blood circulation. Parts of Bidens pilosa lying underground were mowned, cut finely and cleaned with flowing water, and subjected to hot-air drying. Barley (28 g), dry ginger (2 g) and roasted barley (70 g) were mixed with the raw material of plant. 3 g of the above mixture was separately packed in a tea bag. 1 bundle of the mixture was inserted into a boiling water (1 L) and extracted for 5 minutes. The extract was heated in the pot and used for drinking at any time. The extract was found to improve the blood-circulation, effectively.

ADVANTAGE - The blood-circulation improvement agent is highly safe and increases the fluidity of the blood without any side effects.

pp: 5 DwgNo 0/0

Title Terms: AGENT; USEFUL; HEALTH; FOOD; IMPROVE; BLOOD; CIRCULATE; COMPRISE; PLANT; PLANT; COMPONENT

Derwent Class: B04; D13

International Patent Class (Main): A61K-035/78

International Patent Class (Additional): A23L-002/38; A23L-002/52; A61P-009/00

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2005 Thomson Derwent. All rights reserved.

Select All
 Clear Selections

Format
 Display Selected **Free**

© 2005 Dialog, a Thomson business

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-205954

(P2002-205954A)

(43)公開日 平成14年7月23日 (2002.7.23)

(51)Int.Cl.
A 61 K 35/78
A 61 P 9/00
// A 23 L 2/52
2/38

識別記号

F I
A 61 K 35/78
A 61 P 9/00
A 23 L 2/38
2/00

テマコート (参考)
T 4 B 0 1 7
4 C 0 8 8
C
F

審査請求 未請求 請求項の数 4 OL (全 5 頁)

(21)出願番号 特願2001-1720(P2001-1720)

(22)出願日 平成13年1月9日 (2001.1.9)

特許法第30条第1項適用申請有り 2000年10月28日 開催の「日本皮膚科学会第758回東京地方会」において文書をもって発表

(71)出願人 591035391

株式会社武蔵野免疫研究所
東京都新宿区新宿1丁目14番5号

(72)発明者 増澤幹男

神奈川県藤沢市片瀬海岸3-3-17

(72)発明者 勝岡憲生

神奈川県鎌倉市大町2-9-7-203

(72)発明者 横井美典

神奈川県相模原市文京1-20-7

(72)発明者 吉田八束

神奈川県横浜市青葉区あざみ野1-9-1
金子ビル605

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 血液循環改善剤

(57)【要約】

【課題】副作用がなく血液の流動性を高め、血液循環改善効果の確実な、安全性の高い経口剤を提供しようとするものである。

【解決手段】センダングサ属植物、特にビデンス・ピローサまたはその成分を含有する有効性の高い薬剤または食品及びその改善方法。

【発明の効果】再発を繰り返している夏季潰瘍の患者のみならず、難治性の各種血行障害の患者が食生活の一部として本発明の健康茶を飲用し、あるいは本発明の薬剤を摂取するだけで、血液循環が改善され症状悪化の抑制が期待できるようになったことは、極めて価値ある朗報と言わねばならない。

【特許請求の範囲】

【請求項1】センダングサ属の植物またはその成分を含有することを特徴とする血液循環改善剤。

【請求項2】センダングサ属の植物またはその成分を投与することを特徴とする血液循環改善法。

【請求項3】センダングサ属植物がビデンス・ピローサである請求項1の血液循環改善剤。

【請求項4】センダングサ属植物がビデンス・ピローサである請求項2の血液循環改善法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はセンダングサ属植物特にビデンス・ピローサと呼ばれる植物またはその成分を含有する血液循環改善剤、及びこれを用いる血液循環改善法に関し、医療上に用いる薬剤としても、また日常生活における健康食品としても利用価値の高いものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】血液循環を促進する作用を持つ薬剤は数多く報告され、食品中にもショウガとかトウガラシ、あるいはニンジンなど、昔から循環を高めるとされ自覚的にも摂取後に身体がほてったり温まる感じのあるものがある。医療用医薬品にも多くの選択肢があるが、体质によって副作用が出たり、目的とする局所の循環効果が十分でなかったり、治療効果が不確実で改善効果に結び付かないなどの支障のある例がかなり認められる。医学が進歩した現代でも、人間の身体は一人一人個性的な特徴や傾向があるので、しばしば「体质が違う」という言葉で説明されるように、一般的な薬剤に抵抗を示す、すなわち難治性の疾患がどの専門分野においても見られるものである。原因が何であるにせよ、血液の循環を副作用なしに、確実に高めることができれば利用価値は極めて高いものと言わねばならない。本発明者らは、センダングサ属植物、特にビデンス・ピローサと呼ばれる植物またはその成分を含有する薬剤または食品を経口投与して、極めて確実に血液の流動性を高め得ることを発見し、その知見に基づき有用な血液循環改善剤を提供しようとするものである。

【0003】

【課題を解決するための手段】ビデンス・ピローサは熱帯～亜熱帯に分布、抗菌作用、消炎鎮痛作用があるとして、主にアフリカ大陸や中南米地方、中国・台湾など各地で民間薬として消化性潰瘍・胃痛・腹痛・下痢・便秘・腸内寄生虫等の胃腸疾患、咽頭炎・結核・赤痢・マラリア等の感染症、風疹・猩紅熱等の解熱、結膜炎・耳炎・腸炎等の炎症性疾患、リウマチ、糖尿病、肝臓病、あるいは外傷・火傷・毒蛇の咬傷などに用いられるキク科の野草である。また日常的に咳、水湧、喘鳴、ただれ目、歯痛、重症悪阻（おぞ）、癌、腺腫、利尿などの目的にも用いられている。しかし世界各地の研究者によるこのような多岐に亘る調査報告の中に、血液循環の促進

改善を示唆する応用は全く見られない。

【0004】本発明者らは昨今国民病とさえ言われる生活習慣病の一つ、糖尿病の予防及び治療にこの植物を利用しようとして研究開発を進めていたところ、これを健康茶として飲んでいると肌が温かく感じ潤ってくることを発見した。

【0005】そこで、この植物のエキスをマウスに傾向投与して血液流動性の改善効果を試験したところ、実験例に示すように予想以上に明確な血液流動性の改善効果を確認することができたのである。

【0006】

【実験例】メス高齢マウス（C3H/He）ランダムに実験群と対照群に分け、実験群にはビデンス・ピローサ 2.5gを1Lの水で5分間煎じたエキスを、対照群には水道水を給水瓶で自由に摂取させて4週間飼育した。24時間絶水させた後、実験群には前記ビデンス・ピローサエキスを、対照群には水道水を、それぞれ0.2mLずつゾンデを用いて経口投与した。5分後に後大静脈から採血し、抗凝固剤としてノボヘパリンを5%になるように添加して血液レオロジーの実験に供した。実験は顕微鏡下で、血液100μLが3ミクロンのスリットを通過する時間（秒）を10μLごとに測定し、通過時間が短いほど血液の流動性が高い（サラサラ度が高い）と判定した。

【0007】その結果は表1に示すように、ビデンス・ピローサエキスを投与した方が明らかに流動性が高くなった。

表1

μL	実験群	対照群
10	2.4	2.7
20	5.0	5.6
30	7.9	8.6
40	10.7	12.0
50	13.8	16.0
60	16.8	20.5
70	20.2	25.9
80	23.8	32.0
90	27.8	39.0
100	31.9	47.7

【0008】本発明に使用されるキク科のセンダングサ属植物は、既に特願2000-105559に詳述したが、学名ではBidens属と言われる一群の植物で、種類も多岐に亘り互いに交配するので変種も多く、植物学上も混乱が見られ、学名、和名、漢名、の対応も交錯していて同定することは極めて困難であるが、本発明で用いられるセンダングサ属植物は雑種を含め以下に掲げるものを包括する。

【0009】Bidens pilosa L.（コセンダングサ、コシロノセンダングサ、咸豐草）

50 Bidens pilosa L. var. minor (Blume) Sherff (シロバナセ

ンダングサ、シロノセンダングサ、コシロノセンダングサ、コセンダングサ、咸豐草)

Bidens pilosa L. var. *bisetosa* Ohtani et S. Suzuki
(アワユキセンダングサ)

Bidens pilosa L. f. *decumbens* Scherff (ハイアワユキセンダングサ)

Bidens pilosa L. var. *radiata* Scherff (タチアワユキセンダングサ、ハイアワユキセンダングサを含むこともある)

Bidens pilosa L. var. *radiata* Schultz Bipontinus (シロノセンダングサ、オオバナノセンダングサ)

Bidens biternata Lour. Merrill et Scherff (センダングサ)

Bidens bipinnata L. (コバノセンダングサ、センダングサ)

Bidens cernua L. (ヤナギタウコギ)

Bidens frondosa L. (アメリカセンダングサ、セイタカタウコギ)

Bidens maximowicziana Oett (羽叶鬼針草)

Bidens parviflora Willd (ホソバノセンダングサ)

Bidens radiata Thuill. var. *pinnatifida* (Turcz.) Kitamura (エゾノタウコギ)

Bidens tripartita L. (タウコギ)

【0010】このセンダングサ属植物は動物や人の衣服に付いて運ばれる黒褐色の種子の上部に逆棘のある針があり、針の数は交配のため一定しないものが多いが、中国・台湾では鬼針草属、主に咸豐草と呼ばれる。異名も多く、同治草、鬼針草、三葉鬼針草、三葉刺針草、刺針草、婆婆針草、白花婆婆針、蝦籠草、符因草、符因頭、赤查某、金盞銀盤、含風草、南風草、蝦公鉢、羞查某仔等の名があり、それぞれがどの学名に相当するのかは明らかでない。日本では本州の暖地以南で見られ、草丈は25cm~約1mにもなり、通常一年草であるが温暖な気候条件に恵まれると越冬し、花は一年中次々と咲く。花はキク科特有の形で、白色または黄色の丸みのある花弁のような舌状花が数個、中央には黄褐色の管状花が多数集合している。中には舌状花を欠くものもある。茎は四角で薄紫に着色した節がある。3つまたは5つに羽状に分かれた葉には柄があり、縁にはぎざぎざがあって対生しているものが多い。

【0011】

【発明の実施の形態】ビデンス・ピローサは全草を用いてもよいし、地上部のみを用いてもよい。あるいは根を煎じて用いてもよい。あるいは全草をエキスとして使用してもよい。しかしビデンス・ピローサ特有の臭みと味があつて必ずしも万人向きではないので、脱色、脱苦味などの全処理を施して用いてもよい。しかし数多くの経験から、煎じたものを温かいうちに飲むのが最も効果的であるように思われる。以下実施例をもって本発明の実施態様を具体的に説明するが、本発明はこれらの実施例

に限定されるものではない。

【0012】

【実施例1】(健康茶の調製)ビデンス・ピローサ(アワユキセンダングサ)の地上部を刈り取り、流水で洗浄して裁断したものを蒸煮した後、熱風乾燥して細かく刻み、健康茶の原料とした。単独では味が良くないので、その70gに乾燥ショウガ2gと焙煎した大麦28g(いずれも粗碎物)を混合して味を矯正し、3gずつティーバッグの形に分包した。このものは沸騰水1Lに1包を投入して約5分間抽出し、ポットに保温して随时飲用に供した。

【0013】

【実施例2】(エキスの調製)ビデンス・ピローサ(シロバナセンダングサ)全草の乾燥物100gに水2Lを加え、90~100℃で時々攪拌しながら5時間抽出したのち濾過し、その濾液を濃縮乾固してビデンス・ピローサ熱水抽出物23.1gを得た。本品1gはビデンス・ピローサ乾燥物約4.3gに相当する。

【0014】

【実施例3】(顆粒剤の調製)実施例1に用いたビデンス・ピローサの加工乾燥物を60メッシュパスの粉末とし、この粉末8.5gに賦形剤として結晶セルロース(アビセル)1.5gを混合して湿式で顆粒化した。

【0015】

【実施例4】(錠剤の調製)実施例2で得られたビデンス・ピローサエキス100gに対し賦形剤としてトレハロース70gと結晶セルロース(アビセル)30gを加え、常法により1錠200mgの錠剤とした。

【0016】

【実施例5~24】(血行障害のある患者22人への投与)病院皮膚科外来の各種血行障害のある患者有志22名(内脱落2名)に、毎日、実施例1の健康茶を飲んでもらった。すなわち、沸騰した約1リットルの湯に1パックを投入し、保温しておいて1日数回に分けて飲用に供した。味が嫌いという1人と便秘すると訴えた1人が脱落し、20人が継続して飲用してくれた。脱落者を除外した結果は、表2に整理して示したように、大部分の患者では汗が出やすくなったとか、手足が暖かくなってきたという自覚があった。殊に、発汗増(汗が出やすくなった)を報告した患者は、20名中、17人に達した。皮膚が温かくなったと報告した患者は8人あった。これらはいずれも血液循環が改善されたことを示している。

【0017】また夏季潰瘍(Livedo reticularis with summer ulceration)の患者は20人中7人で、夏期になると下肢に繰り返し潰瘍を生じる難治性血行障害である。平均8年の罹病期間があり、ほとんどの患者が毎年夏季になると潰瘍の再発に悩んでいたが、早い人で5月23日、遅い人で7月21日から飲用を開始したところ、驚いたこ

とにこの7例の患者の夏季潰瘍が全くと言つていいほど再発しなかった。夏季潰瘍は必ずしも毎年再発するとは限らないが、ビデンス・ピローサの茶を飲用した7人全員に夏季潰瘍が出現しなかったことは、疑う余地なくこのお茶の効果によるものであると思われる。常に痛みを伴う潰瘍が再発しなかったことにつき、医学的機序を含むその有効性については今後長期間の経過観察が必要であるものの、患者にとっては大変な喜びである。

【0018】ここに言う夏季潰瘍とは、正確には夏季潰瘍を伴うリベド (Livedo reticularis with summer ulceration) で、最近は珍しくなくなった疾患の1つであり、発明者の二人が所属する大学病院の皮膚科においては数十人の患者が通院している。この病気は発生機序がまだ解明されていないが、少なくとも狭義の壊死性血管炎ではなく、皮膚微小血管の血行障害であると言うことができ

る。この疾患の問題点は毎年のように夏になると再発する夏季潰瘍である。足の関節を中心に繰りかえされる、この虫食い状の痛みを伴う潰瘍は、一旦形成されると上皮が形成回復するまでに数ヶ月を要し、患者にとって著しいストレスである。この再発予防法としては生活の改善と、末梢循環改善剤、抗血小板剤、ビタミン剤、ときには免疫抑制剤やステロイドホルモンなどの薬物療法を行なうが、確実な予防効果は期待できないのが実状である。文献上でも有望な予防方法は全く報告されていない。

【0019】再発を繰り返している夏季潰瘍の患者のみならず、各種血行障害の患者が食生活の一部としてこの健康茶を飲用するだけで、血液循環が改善され症状悪化の抑制が期待できるようになったことは、極めて価値ある朗報と言わねばならない。

【0020】

表2

姓名	年齢	性	疾患名	継続日数	観察報告事項要約
5 TM	54	女	夏季潰瘍	6 6	再発なし、発汗増
6 AK	59	女	夏季潰瘍	8 0	再発なし、発汗増
7 NM	53	女	夏季潰瘍	7 2	再発なし、発汗増
8 HC	28	女	夏季潰瘍	9 4	再発なし、発汗増、皮膚暖
9 AT	51	女	夏季潰瘍	9 4	再発なし、発汗増
10 SY	42	女	夏季潰瘍	5 6	再発なし、発汗増
11 MH	67	女	夏季潰瘍	5 0	再発なし、発汗増、皮膚暖
12 AM	45	女	バージャー病	9 1	悪化なし、発汗増、皮膚暖
13 KM	61	男	バージャー病透析	9 1	悪化なし、発汗増、皮膚暖
14 NY	64	男	バージャー病	5 6	悪化なし、発汗増、皮膚暖
15 HS	76	女	術後リンパ浮腫	8 5	改善中、発汗増
16 KS	55	女	術後リンパ浮腫	9 4	患肢部位の発汗増
17 KM	69	女	術後リンパ浮腫	8 1	改善中
18 KS	56	女	ペーチェット病	8 2	悪化なし、
19 IM	24	女	動脈閉塞	7 5	悪化なし、発汗増、皮膚暖
20 HM	64	女	足底角化症	5 6	軽快中、発汗増
21 NK	77	女	痘疹後神経症	3 6	皮膚暖
22 SH	57	女	ASO	5 0	悪化なし、発汗増、皮膚暖
23 KY	51	女	シャンバーグ病	4 2	軽快中、発汗増
34 KK	73	女	術後リンパ浮腫	4 9	悪化なし、発汗増

【0021】

【実施例35～38】（乳幼児アトピー性皮膚炎）ここに挙げる4例は、医師の診察を受けアトピー性皮膚炎と診断されたものの、母親が薬剤を恐れるので、塗り薬を使用せず、実施例1の健康茶を体温で、表記のように投

与した例である。この間に排便の回数も増え便の状態も改善が見られた。アトピー性皮膚炎が改善するのはやはり血液の循環性が改善され血行障害が除かれた結果と考えられる。

氏名・年齢・性	OA 3カ月 女
発症部位	顔・耳・頸の周囲、四肢の付根や関節部
投与法・投与量	入浴前後毎回50～60mLずつ、 授乳前毎回30～40mLずつ
1日投与量	約10回、約400mL
経過	1カ月で顔・耳、2カ月で頸の症状消退、 3～4カ月でほぼ完治

氏名・年齢・性	K A 4カ月 女
発症部位	耳・頸・頬・腕の関節部
投与法・投与量	就眠前・授乳前毎回30~60mLずつ
1日投与量	約10回、約500mL
経過	約2週間でまず頬が、約5週間で他の部位の症状もほとんど消失した。
氏名・年齢・性	T B 1歳半 女
発症部位	手・腕・顔・ふくらはぎ
投与法・投与量	随時
1日投与量	10回以上、1~1.2L
経過	約1カ月半で顔から発疹が消退し、 他は1~2カ月遅れて消失した。 その後半年になるが全く再発していない。
氏名・年齢・性	O C 2歳半 男
発症部位	耳・頸・腕・膝の裏
投与法・投与量	随時
1日投与量	10回以上、1.5~1.8L
経過	約2カ月から発疹も痒みも次第に消退し3カ月で完治。 その後半年になるが全く再発していない。

【0022】

【実施例39】(蕁麻疹) 53歳の男性、N Hは発汗、入浴後、運動後等により発症する蕁麻疹で、食物との因果関係は否定されており、抗ヒスタミン剤の内服で症状を抑えるよりなく、長年悩まされてきた。体质改善のため毎朝30~40分の速歩での散歩を取り入れると共に、コップ1杯あたり実施例2のエキス粉末約0.3gを入れて毎日10杯の湯または茶を摂らせた。その結果約半年後には蕁麻疹が出なくなった。この例も何等かの血行障害が除かれた結果と考えられる。

【0023】

【実施例40】(乾癬) 29歳の男性、K Kは全身性の皮膚炎で、医師から乾癬と診断され、1年ほど通院してステロイド外用剤治療を受けたが改善しなかった。そこで実施例1の健康茶を体温より少し高めで毎日コップ10杯以上摂取させたところ、約2週間で目のクマが消え、4~5カ月経った頃から徐々に痒みが消退し、半年後には全身的に症状が消失した。この例も血行障害が改善の結果と考えられる。

【0024】

【実施例41】低血圧・冷え症の32歳、事務職の女性T Sは体調が悪く、2~3カ月に1回という生理不順と

20 生理痛で悩んでいた。実施例1の健康茶を体温より少し高めの温度で毎日1.2~1.5L飲ませ、同時に就寝前に実施例3の顆粒剤1gを与えた。約1カ月半後から食欲が出て体調がよくなつた自覚があり、次第に手足の冷えが改善されると共に生理痛が軽くなり、4~5カ月後には生理も毎月となり、冬になってもあまり手足の冷えを感じなくなった。この例では専ら血行改善の作用が著効をもたらしたものと考えられる。

【0025】

【実施例42】(メニエール氏病) メニエール氏病は内耳の血行障害に起因する病気と考えられている。52歳の女性K Kはメニエール氏病に加えて更年期ということもあり、血圧不安定で不眠、頻尿、耳鳴り、むかつき等の症状に悩まされ、さらに皮膚炎を伴っていた。実施例1の健康茶を体温より少し高めで毎日1~1.2L摂取すると共に就寝前には実施例4の錠剤3錠を与えた。約1~2カ月で不眠、むかつき、次いで耳鳴り、等の症状が消退し、3~4カ月では皮膚炎も消え血圧も次第に安定して日常生活に支障のない健康状態を回復した。この例もやはり全身的な血行障害の改善の結果と考えられる。

フロントページの続き

F ターム(参考) 4B017 LC03 LE09 LG15 LP01
4C088 AB26 AC01 AC02 AC11 BA09
CA05 NA14 ZA36